

平成 27 年病害虫の発生と防除

農林水産省消費・安全局 植物防疫課
農産安全管理課農薬対策室

I 天候経過の状況(気象庁報道発表資料より抜粋, 図-1)

1 2015年(平成27年)冬(2014年12月～2015年2月)の特徴

(1) 東・西日本と沖縄・奄美では、12月に強い寒気の南下による気温の低下が大きかったことから、冬の平均気温も低かった。東日本では4年連続の寒冬だった。一方、北日本では、1月以降寒気の南下が弱く気温の高い日が続き、暖冬となった。

(2) 日本海側の降雪量は、12月に強い寒気の南下に伴って平年を上回ったが、1月以降は寒気の南下が弱かったことから平年を下回った。その結果、冬の降雪量は少なく、北日本日本海側ではかなり少なかった。一方、北陸以北の本州の山沿いでは、降雪量や最深積雪は平年を上回った。

(3) 低気圧が北日本の東海上で発達し、北日本では北海道を中心に暴風雪となる日がたびたびあった。

2 2015年(平成27年)春(3～5月)の特徴

(1) 南西から暖かい空気が流れ込んだため、春の気温は全国的に高く、北日本では平年差+1.9℃で、統計を開始した1946年以降で春としては最も高い記録を更新し、31地点で春の平均気温が観測史上最も高い値を更新した。

(2) 低気圧の影響で、北日本の降水量は多かった。

(3) 本州付近は移動性高気圧に覆われることが多かったため、日照時間は、北日本と東日本日本海側ではかなり多く、東日本太平洋側、西日本日本海側で多かった。

3 2015年(平成27年)夏(6～8月)の特徴

(1) 夏の平均気温は、6月に太平洋高気圧が強まり顕著な高温となった沖縄・奄美でかなり高く、7月中旬から8月上旬にかけて太平洋高気圧の張り出しが強まった北日本で高かった。一方、前線や台風、南からの湿った気流の影響を受けやすかった西日本では低かった。気温の高い時期と低い時期があった東日本では平年並だった。

(2) 前線や台風、南からの湿った気流の影響を受けやすかった西日本太平洋側と沖縄・奄美では降水量がかなり多かった。一方、東日本日本海側では梅雨前線の影響を受けにくく、降水量がかなり少なかった。

(3) 前線や台風、南からの湿った気流の影響を受けやすかった西日本太平洋側では、日照時間がかなり少なかった。

4 2015年(平成27年)秋(9～11月)の特徴

(1) 9月から10月にかけては日本付近に寒気が南下しやすく北・東・西日本では低温傾向だったが、11月は寒気は南下しにくく全国的に高温となった。秋の平均気温は北・東・西日本では平年並となった。

(2) 9月上旬と11月は低気圧や前線が本州付近を通過することが多く、北日本から西日本にかけては曇りや雨の日が多かった。特に「平成27年9月関東・東北豪雨」では記録的な大雨となった。一方、9月中旬から10月にかけては大陸から移動してきた高気圧に覆われることが多く、晴れた日が多くなった。

(3) 沖縄・奄美では、高気圧の勢力が平年より強かったため、気温がかなり高く、降水量がかなり少なかった。

(参照)

気象庁ホームページ

<http://www.jma.go.jp/jma/press/index.html?t=1&y=27>

II 作物別の病害虫発生状況の概要(表-1)

1 水稲病害虫(表-2(1)①; 図-2, 3)

病害: 本年は、台風や前線の影響で何度となく長期間の天候不順に見舞われ、そのたびにイネいもち病の多発と被害の拡大が懸念された。そのため、6月から9月にかけて、イネいもち病について、九州を中心に11県から延べ18件の注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。特に、6月から7月の梅雨の時期には、九州南部を中心に西日本で深刻な日照不足および長雨となり、葉いもちの拡大と穂いもちへの移行が懸念された。さらに、8月下旬から再び低温、多雨、日照不足の傾向が続き、穂いもちの多発が懸念された(図-2)。

昨年8月も西日本を中心に多雨、日照不足に見舞われ、注意報(17府県から延べ18件)だけでなく、警報が5

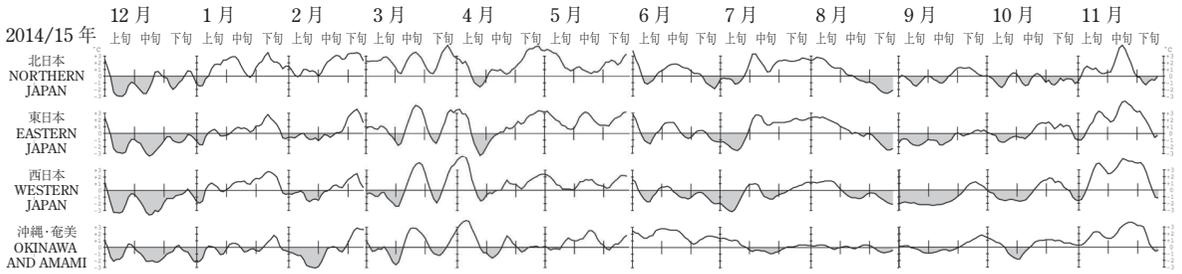


図-1 地域別平均気温年差の経過（5日移動平均）：気象庁報道発表資料から抜粋

県から発表されたが、本年は警報は発表されなかった。

イネ縞葉枯病については、昨年、茨城、栃木、群馬、埼玉および神奈川の関東5県から延べ6件の注意報が発表されたが、本年もこれら5県から5件の注意報が発表された。

害虫：トビイロウンカは、九州から四国、本州にかけて一部の地域で飛来もしくは生息が確認されたが、例年飛来が多い九州をはじめ、各地で平年より小発生・小飛来傾向となった。結果的に、全国的に警報・注意報の発表はなく、大きな被害が生じたという報告はなかった。

斑点米カメムシ類については、昨年と同様に6月から北日本、北陸、並びに近畿および中国の日本海側の各地域から注意報が15県（延べ17件）発表された。昨年は警報発表が1県（1件）、注意報発表が24道府県（延べ32件）であったのに対し、本年は警報の発表はなかった（図-3）。

水稻の作況指数（10月15日現在）は、全国では100で「平年並み」あったが、地域ごとには北海道104、東北103、関東・東山98、北陸99、東海98、近畿100、中国98、四国96、九州96、沖縄95となり、作柄は北海道および東北で「やや良」、北陸および近畿で「平年並み」、関東・東山、東海、中国、四国、九州、沖縄で「やや不良」という結果となった。

2 その他普通作物病害虫（表-2(1)②）

麦：麦類が出穂し、麦類赤かび病の影響を受けやすい4月上・中旬に、おおむね全国的に日照時間が少なく、雨が多い天候が続いたため、本病の発生が平年よりが多くなるのが懸念されたが、4月に注意報が愛媛県、三重県および静岡県との3県から発表されたにとどまった。

ばれいしょ：ジャガイモ疫病については、4月30日に静岡県が平年より発生が多いとして、注意報を発表し、7月13日には北海道が初発確認が平年より早いとして、同じく注意報を発表した。本病の注意報発表は、平成22年の長崎県および鹿児島県の2件以来なかった。

3 果樹病害虫（茶を含む）（表-2(1)③）

病害：ナシ黒星病については、4月以降、各都道府県から発生が「多い」または「やや多い」という報告が多かった。本病について、福島県、茨城県、宮城県、愛知県、佐賀県の5県が注意報を発表している。

害虫：果樹カメムシ類は、昨年、31都道府県から延べ41件の注意報が発表され、最も警戒された害虫の一つであったが、本年の発表は愛媛県、徳島県、三重県（2回）、高知県、岐阜県および熊本県の6県から延べ7件であった。

4 野菜および花き病害虫（表-2(1)④）

病害：タマネギべと病の注意報発表件数が多く、佐賀（2回）、長崎、島根および山口の4県から5件発表され、防除が呼びかけられた（昨年は2県から2件発表）。

害虫：いちごのハダニの注意報発表件数が多く、3月までに、岐阜県、長崎県および佐賀県の3県が発表し、6月以降は、熊本県、長崎県（2回）および愛知県の3県が発表し、防除が呼びかけられた。

なお、本年は作物全般において警報の発表はなかった（表-2(1)）。

特殊報は、11月30日までに都道府県から49件発表されており、そのうち普通作に関するものは3件、果樹・茶に関するものは17件、野菜・花き等に関するものは29件であった（表-2(2)）。

III 病害虫防除事業

我が国で未発生の重要病害虫や、国内の一部地域のみで発生している重要病害虫が新たな地域に侵入、まん延した場合、我が国の重要な農作物に甚大な被害を及ぼすおそれがあることから、侵入の早期発見、早期防除のため、都道府県と連携し、海空港や生産地等で侵入警戒調査を実施している。また、万が一、侵入した場合には、重要病害虫発生時対応基本指針に基づき、関係都道府県と連携し、調査、防除等を行い、発生状況を把握するとともに、必要に応じて移動規制や緊急防除等の措置を講

表-1 病害虫発生・防除状況 (平成 27 年 10 月 1 日現在速報値)

(単位:千ha, %)

病害虫名	概評	発生面積 (注1) /前年比	延べ防除面積 (注2) /前年比	病害虫名	概評	発生面積 (注1) /前年比	延べ防除面積 (注2) /前年比
(水稲)				黒星病	南東北および北陸の一部地域で「多い」。東海、近畿、中国および九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。北関東の一部地域で「やや多い」。	5 103.8	131 119.2
粟いもち	関東、中国、四国および九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。近畿の一部地域で「やや多い」。	334 95.4	1,318 92.7	ナシヒメシロイ	北陸、近畿および北九州の一部地域で「やや多い」。	1 90.5	61 108.7
穂いもち	近畿、中国、四国および九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。北関東および東海の一部地域で「やや多い」。	269 68.6	1,189 89.5	ハダニ類	南東北および北陸の一部地域で「多い」。北関東の一部地域で「多い」または「やや多い」。東海、近畿、中国および四国の一部地域で「やや多い」。	6 91.1	38 108.9
紋枯病	北陸、甲信および四国の一部地域で「多い」。東北、北および東海の一部地域で「多い」または「やや多い」。北海道、近畿および中国の一部地域で「やや多い」。	588 90.6	647 88.9	カメムシ類	北関東、東海、中国および四国の一部地域で「やや多い」。	1 48.6	23 75.7
白葉枯病	九州の一部地域で「やや多い」。	6 120.0	72 142.2	アブラムシ類	北関東の一部地域で「やや多い」。	6 84.7	38 106.3
ばか苗病	東北の一部地域で「多い」または「やや多い」。北陸、東海、近畿、四国および九州の一部地域で「やや多い」。	16 91.1	780 111.2	(もも)			
もみ枯細菌病	四国の一部地域で「多い」。東海の一部地域で「多い」または「やや多い」。東北、近畿および九州の一部地域で「やや多い」。	30 105.3	128 100.2	せん孔細菌病	南東北、東海、中国および四国の一部地域で「多い」。近畿の一部地域で「多い」または「やや多い」。北陸の一部地域で「やや多い」。	4 98.5	47 100.8
稲葉枯病	関東の一部地域で「多い」または「やや多い」。東海の一部地域で「やや多い」。	79 90.2	113 55.3	灰星病	近畿および四国の一部地域で「やや多い」。	1.0 120.0	37 109.8
稲こじ病	中国、四国、九州の一部地域で「やや多い」。	75 60.6	61 108.9	晩腐病	北関東の一部地域で「多い」。北陸および近畿の一部地域で「やや多い」。	2 103.7	41 104.5
ニカメイガ	東海の一部地域で「多い」または「やや多い」。南関東の一部地域で「やや多い」。	100 98.9	527 91.2	べと病	四国の一部地域で「多い」。近畿および北九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。北関東、東海、中国の一部地域で「やや多い」。	4 96.9	55 104.8
セジロウカ	近畿および九州の一部地域で「やや多い」。	582 108.9	1,178 99.6	灰色かび病	北関東、近畿および北九州の一部地域で「やや多い」。	0.4 85.1	30 100.6
トビイロウカ	九州の一部地域で「やや多い」。	66 32.1	899 81.9	(かき)			
ヒトビロウカ	北陸の一部地域で「多い」または「やや多い」。関東、甲信、東海、九州の一部地域で「やや多い」。	759 91.9	1,180 75.5	うどんこ病	東海および北九州の一部地域で「多い」。近畿、中国および四国の一部地域で「やや多い」。	7 122.1	47 97.3
ツマプロコバイ	南東北および南関東の一部地域で「多い」。四国の一部地域で「多い」または「やや多い」。中国および九州の一部地域で「やや多い」。	445 95.8	843 70.8	落葉病類	北関東の一部地域で「多い」。東海、近畿および四国の一部地域で「やや多い」。	4 107.2	44 91.0
イネトクオイムシ	南関東の一部地域で「多い」。南九州の一部地域で「やや多い」。	107 85.1	541 93.8	カメムシ類	東海および中国の一部地域で「やや多い」。	4 44.5	34 56.3
斑点カメムシ類	東北、北陸、中国、南九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。北関東、甲信、東海、四国の一部地域で「やや多い」。	545 100.4	1,430 91.0	カキガザアザミウマ	近畿および四国の一部地域で「やや多い」。	0.7 76.9	17 93.0
アワトウ	北東北の一部地域で「やや多い」。	8 13.2	32 93.8	(茶)			
フノメイガ	東海の一部地域で「多い」。近畿および鹿児島の一部地域で「やや多い」。	158 224.7	388 81.1	炭そ病	南関東および東海の一部地域で「多い」。九州の一部地域で「やや多い」または「やや多い」。近畿の一部地域で「やや多い」。	26 115.8	82 100.8
イネミズノムシ	南東北の一部地域で「多い」。北関東、東海、近畿、四国および南九州の一部地域で「やや多い」。	519 94.4	729 103.5	チャノココクモンハ	南関東および近畿の一部地域で「多い」。南九州の一部地域で「やや多い」。	13 101.8	76 98.0
(麦類)				カンザワハダニ	北九州の一部地域で「多い」。近畿の一部地域で「やや多い」。	20 107.1	77 100.2
さび病類	東海の一部地域で「多い」。甲信の一部地域で「やや多い」。	21 102.7	210 119.8 (平年 値比)	(きゅうり)			
うどんこ病	南関東および東海の一部地域で「多い」。甲信の一部地域で「やや多い」。	18 103.2	281 99.9	べと病	東北、関東および四国の一部地域で「多い」または「やや多い」。甲信、近畿および九州の一部地域で「やや多い」。	4 108.0	24 100.1
赤かび病	東海および四国の一部地域で「多い」。北九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。南東北、近畿および中国の一部地域で「やや多い」。	40 207.3	541 326.4	うどんこ病	関東の一部地域で「多い」または「やや多い」。南東北、北陸、近畿および中国の一部地域で「やや多い」。	3 108.1	23 101.3
雪腐病類	北陸の一部地域で「多い」。	33 85.6	94.1 121.8 (平年 値比)	(すいか)			
(ばれいしよ)				つる枯病	北陸の一部地域で「やや多い」。	0.5 78.6	14 64.7
疫病	九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。	9 80.5	386 96.0	(はくさい)			
(大豆)				軟腐病	北関東の一部地域で「やや多い」。	0.6 67.4	14 82.4
紫斑病	「平年並」～「少ない」。	2.4 402.0	39 93.5	白班病	中国の一部地域で「やや多い」。	0 38.8	10 95.3
べと病	東北、北関東および近畿の一部地域で「多い」。中国および九州の一部地域で「やや多い」。	42 129.2	20 85.9	(キャベツ)			
葉焼病	南東北、東海、中国の一部地域で「やや多い」。	16 114.6	1.0 (前年 値なし)	黒腐病	東海および近畿の一部地域で「多い」。北関東、中国および北九州の一部地域で「やや多い」。	1 115.8	29 120.6
アブラムシ類	関東および九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。中国の一部地域で「やや多い」。	15 71.2	40 103.7	コナガ	東北、関東、東海および近畿の一部地域で「やや多い」。	6 159.4	43 151.1
ハスモンヨトウ	九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。	25 111.6	60 126.2	(たねおぎ)			
ハダニ類	北関東および北陸の一部地域で「多い」。	12 89.6	0.3 121.5	べと病	中国の一部地域で「多い」。北九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。北関東および近畿の一部地域で「やや多い」。	4 104.7	15 100.2
カメムシ類	四国の一部地域で「やや多い」。	17 95.2	69 97.5	(野菜共通)			
(かんきつ類)				疫病	きゅうり: 近畿の一部地域で「やや多い」。トマト: 中国および四国の一部地域で「多い」。九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。関東の一部地域で「やや多い」。	0.5 119.2	12 85.8
そうか病	南関東および東海の一部地域で「多い」。四国の一部地域で「多い」または「やや多い」。近畿、九州および沖縄で「やや多い」。	8 73.5	82 98.1	灰色かび病	いちご: 東海の一部地域で「多い」。南東北、近畿および北九州の一部地域で「やや多い」。トマト: 関東および東海の一部地域で「多い」または「やや多い」。南東北、甲信、近畿、中国および九州の一部地域で「やや多い」。	3 114.6	48 103.1
黒点病	中国の一部地域で「多い」。九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。東海、近畿および四国の一部地域で「やや多い」。	50 121.3	210 96.5	ハダニ類	いちご: 東海および近畿の一部地域で「多い」。南東北および九州の一部地域で「やや多い」または「やや多い」。北関東、中国および四国の一部地域で「やや多い」。	7 104.5	42 94.0
かいよう病	四国の一部地域で「多い」または「やや多い」。近畿、中国および九州の一部地域で「やや多い」。	16 102.3	86 102.2	ハスモンヨトウ	いちご: 中国の一部地域で「多い」。南東北の一部地域で「やや多い」。キャベツ: 北関東の一部地域で「多い」。北九州の一部地域で「やや多い」。さつまいも: 北関東および南九州の一部地域で「やや多い」。トマト: 南関東の一部地域で「多い」。南九州の一部地域で「やや多い」。はくさい: 北関東の一部地域で「多い」。ピーマン: 南九州の一部地域で「やや多い」。レタス: 北関東の一部地域で「多い」。北九州の一部地域で「やや多い」。	9 233.2	80 128.0
ヤノネカイガラムシ	東海および四国の一部地域で「やや多い」。	3 93.4	60 109.8	ヨトウガ	キャベツ: 北東北の一部地域で「多い」。	2 146.1	29 133.1
ミカンハダニ	中国の一部地域で「多い」。近畿、四国および北九州の一部地域で「やや多い」。	37 102.4	152 92.7	(きく)			
カメムシ類	四国の一部地域で「多い」。東海および北九州の一部地域で「やや多い」。	5 51.5	27 79.8	白さび病	九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。近畿の一部地域で「やや多い」。	0.2 125.3	5 105.4
(りんご)				アザミウマ類	南東北および九州の一部地域で「多い」または「やや多い」。甲信および近畿の一部地域で「やや多い」。	0.6 138.2	5 115.6
モリニア病	「平年並」～「少ない」。	0.1 77.5	6 94.0	アブラムシ類	東海および南九州の一部地域で「やや多い」。	0.4 83.6	4 106.1
斑点落葉病	北海道の一部地域で「やや多い」。	6 113.5	106 99.9				
黒星病	東北の一部地域で「多い」。北海道および甲信の一部地域で「やや多い」。	3.2 547.0	76 97.0				
腐らん病	北海道、南東北および甲信の一部地域で「やや多い」。	5 142.6	29 95.6				
ハマキムシ類	北関東の一部地域で「多い」。	2 147.3	55 101.9				
ハダニ類	北関東および東海の一部地域で「多い」。東北の一部地域で「多い」または「やや多い」。	15 197.8	49 96.9				
(なし)							
黒斑病	近畿および四国の一部地域で「やや多い」。	1 86.0	39 96.6				

注1: 標本抽出された調査定点ごとに定められた調査方法に従い病害虫発生度(無、少、中、多、甚の5段階)を算出し、調査地区内の栽培面積を各発生程度の割合に乗じて発生程度別面積を算出。無発生を除く。発生程度別面積「少」～「甚」を合算した数値。

注2: 当該病害虫を対象として複数回防除を実施した場合や2種類以上の病害虫を対象とする混合剤による防除を実施した場合は、その回数や剤数を乗じて散布面積を算出した数値。

表-2 平成 27 年発生予察情報（警報・注意報・特殊報）の発表状況

(1) 警報・注意報（平成 27 年は警報の発表はなし）

(注：数字は発表月日。警報発表月日を斜体，注意報発表月日を正体で表す。（ただし 27 年度は警報の発表なし）（1 月 1 日～ 11 月 30 日）

①水稲		葉いもち	穂いもち	いもち病	斑点米カメムシ類	その他の病害虫
北海道					8/5	
東北	青森		7/30		7/30	5/21 イネヒメハモグリバエ（イネミギワバエ）
	岩手 宮城 秋田 山形 福島				7/3, 7/29 8/7 7/9, 7/23 6/30	
関東	茨城			7/9	8/11	3/25 イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ） 6/3 イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ） 4/13 イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ） 3/30 イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）
	栃木 群馬 埼玉 千葉県 東京都 神奈川県 山梨県 長野県 静岡県					3/13 イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）
北陸	新潟				7/1 6/24 7/8 6/30	
	富山 石川 福井					
東海	岐阜				7/22	
	愛知 三重					
近畿	滋賀				6/23	
	京都 大阪 兵庫県 奈良 和歌山					
中国四国	鳥取		7/29		8/3 7/17	
	島根 岡山 広島 山口 徳島 香川県 愛媛 高知		8/20	7/27 7/1		
九州	福岡	7/24, 8/10	9/2 9/4	7/23		
	佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	6/23, 7/8	7/30, 9/3 9/4 6/18	8/3		
沖縄						

(1月1日～11月30日)

②畑作 (水稲を除く)		ハスモンヨトウ	その他の病害虫
北 海 道			7/13 ジャガイモ疫病 (ばれいしょ)
東 北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		
	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡		4/30 麦類赤かび病 (麦類), 4/30 ジャガイモ疫病 (ばれいしょ)
北 陸	新潟 富山 石川 福井		
東 海	岐阜 愛知 三重		4/23 コムギ赤かび病 (小麦)
近 畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山		
中 国 四 国	鳥取 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知		4/13 麦類赤かび病 (麦類)
九 州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島		
沖 縄			4/30 メイチユウ類 (さとうきび)

(1月1日～11月30日)

③果樹 (茶を含む)		果樹カメムシ類	その他の病害虫
北海道			
東北	青森		6/8 ハダニ類 (ナミハダニ, リンゴハダニ) (りんご)
	岩手		6/23 ナシ黒星病 (なし)
東北	宮城		
	秋田		4/24 モモせん孔細菌病 (もも), 5/8 ナシ黒星病 (なし),
東北	山形		5/26 モモせん孔細菌病 (もも)
	福島		
関東	茨城		5/28 ナシ黒星病 (なし)
	栃木		
	群馬		
	埼玉		
	千葉		
	東京		
	神奈川		
	山梨		5/1 マイマイガ (果樹等作物)
	長野		
	静岡		
北陸	新潟		
	富山		
北陸	石川		
	福井		
東海	岐阜	7/29 (もも, りんご, なし等)	7/23 カキノヘタムシガ (かき)
	愛知	5/25 (なし, かき等), 8/3 (なし, かき, かんきつ等)	7/3 ナシ黒星病 (なし)
近畿	滋賀		7/15 ブドウベと病 (ぶどう)
	京都		6/29 ミカンハダニ (かんきつ類)
近畿	大阪		9/8 モモせん孔細菌病 (もも)
	兵庫		
近畿	奈良		
	和歌山		
中国四国	鳥取		
	島根		
	岡山	5/13 (なし, もも, うめ, かき, かんきつ類等)	9/25 カキ炭そ病 (かき)
	山口		
	徳島	4/24 (うめ, もも, びわ, キウイフルーツ, なし, すもも, かんきつ, かき等)	
	香川	6/5 (うめ, もも, すもも, なし, かき, かんきつ類)	
九州	愛媛		
	高知		
九州	福岡		7/9 ナシ黒星病 (なし), ブドウベと病 (ぶどう), ブドウ黒とう病 (ぶどう)
	佐賀		
九州	長崎	8/5 (かんきつ類, なし, かき, もも等)	
	熊本		5/28 チャ炭そ病 (茶)
九州	大分		
	宮崎		
九州	鹿児島		
	鹿嶋		
沖縄			

(1月1日～11月30日)

④野菜・花き		ハスモンヨトウ	その他の病害虫
北海道			
東北	青森	森手	6/30 ネギアザミウマ, ネギハモグリバエ (ねぎ), 7/30 ハダニ類 (りんどう), 8/31 キュウリベと病 (きゅうり)
	宮城	城田	8/27 ネギアザミウマ (ねぎ)
関東	茨城	城木	
	群馬	馬玉	
北陸	新潟	湯山	
	富山	川井	
東海	岐阜	阜	1/28 ハダニ類 (いちご), 4/16 灰色かび病 (トマト, きゅうり, いちご等), 9/9 トマト灰色かび病 (トマト)
	愛知	知重	9/15 コナガ (キャベツ), 10/2 ハダニ類 (いちご), キャベツ黒腐病 (キャベツ)
近畿	滋賀	賀	5/25 ネギアザミウマ, ネギえそ条斑病 (ねぎ)
	京都	大阪	4/13 タマネギ細菌性病害 (腐敗病) (たまねぎ), 4/15 キャベツ菌核病 (キャベツ)
中国四国	鳥取	取根	4/2 タマネギベと病 (たまねぎ)
	岡山	山島	4/14 タマネギベと病 (たまねぎ)
九州	福岡	岡賀	2/26 イチゴうどんこ病 (いちご), タマネギベと病 (たまねぎ), 3/9 ハダニ類 (いちご), 4/2 タマネギベと病 (たまねぎ)
	熊本	本分	2/2 ハダニ類 (ナミハダニ, カンザワハダニ) (いちご), 3/30 タマネギベと病 (たまねぎ), 8/18 ハダニ類 (ナミハダニ, カンザワハダニ) (いちご), 10/14 ハダニ類 (ナミハダニ, カンザワハダニ) (いちご)
沖縄	宮崎	崎	6/11 ハダニ類 (いちご), 8/5 トマト葉かび病 (トマト), 11/9 イチゴうどんこ病 (いちご)
	鹿児島	島	3/19 ネギベと病 (ねぎ), 11/25 ネギベと病 (ねぎ)
沖縄			10/30 アザミウマ類 (小ぎく)

(2) 特殊報

(1月1日～11月30日)

		①普通作	②果樹類(茶を含む)	③野菜類(花き類含む)
北海道		1/16 てんさい褐斑病 (QoI 剤耐性) (てんさい), 8/19 ジャガイモシロシストセンチュウ (ばれいしょ)		
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島			6/23 アルファルファタコゾウムシ (レンゲ)
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡		7/9 ミカンコナカイガラムシ (いちご) 10/8 ヒサカキワタフキコナジラミ (茶) 6/12 キウイフルーツかいよう病 (Psa3 系統) (キウイフルーツ) 3/26 キウイフルーツかいよう病 (Psa3 系統) (キウイフルーツ) 2/19 キウイフルーツかいよう病 (Psa3 系統) (キウイフルーツ) 11/20 ニホンナシハモグリダニ (仮称) (なし) 5/11 オリーブがんしゅ病 (オリーブ)	1/27 シソモザイク病 (仮称) (しそ), 5/28 ニラ褐色葉枯病 (にら), 11/30 トマト退緑萎縮病 (TCDVd) (トマト) 8/24 トマト茎えそ病 (仮称) (CSNV) (トマト), 11/2 ミナミアオカメムシ (ごま, ささげ, オクラ, なす), 11/17 メボウキ (パジル) べと病 (仮称) (めぼうき) 10/15 タバコノミハムシ (トマト, なす)
北陸	新潟 富山 石川 福井		3/26 カキサビダニ (かき)	
東海	岐阜 愛知 三重		7/3 ウメ輪紋病 (PPV) (うめ)	2/2 クロテンコナカイガラムシ (食用トレンア, 食用金魚草), 3/2 キュウリ退緑黄化病 (CCYV) (きゅうり), シソモザイク病 (仮称) (PMoV) (しそ)
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山			6/5 トマト茎えそ病 (仮称) (CSNV) (トマト), 6/26 トウガラシえそ輪点病 (CSNV) (とうがらし) 7/17 キク茎えそ病 (CSNV) (きく) 7/13 ニンジン斑点細菌病 (にんじん)
中四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 高松 愛媛 高知	11/20 ヨツモンカメノコハムシ (さつまいも)	10/20 モモ果実赤点病 (もも) 5/28 キウイフルーツかいよう病 (Psa3 系統) (キウイフルーツ) 7/31 <i>Aromia bungii</i> (もも, うめ, すもも) 4/27 キウイフルーツかいよう病 (Psa3 系統) (キウイフルーツ) 6/9 キウイフルーツかいよう病 (Psa3 系統) (キウイフルーツ)	10/1 トルコギキョウえそ輪紋病 (IYSV) (トルコギキョウ) 2/10 キュウリ黒点根腐病 (きゅうり (かぼちゃ台木)) 5/28 トマト茎えそ病 (仮称), ピーマンえそ輪点病, (CSNV) (トマト, パプリカ), 9/14 トマト葉かび病菌 (レース4.9) (トマト)
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島		11/20 モモ果実赤点病 (もも), ヒメボクトウ (なし)	5/18 トマト茎えそ病 (仮称), ピーマンえそ輪点病, (CSNV) (トマト, ピーマン) 3/23 トマト茎えそ病 (仮称) (CSNV) (トマト), 9/15 トルコギキョウえそ輪紋病 (IYSV) (トルコギキョウ) 3/1 トルコギキョウ茎えそ病 (トルコギキョウ), 6/3 ナンヨウネコフセンチュウ (さといも), ピーマンえそ輪点病 (ピーマン), 8/21 キク茎えそ病 (きく), トマト茎えそ病 (仮称) (CSNV) (トマト)
沖縄				3/13 秋ウコン青枯病, 春ウコン青枯病, 紫ウコン青枯病 (秋うこん, 春うこん, 紫うこん)



図-2 イネいもち病の警報・注意報発表状況

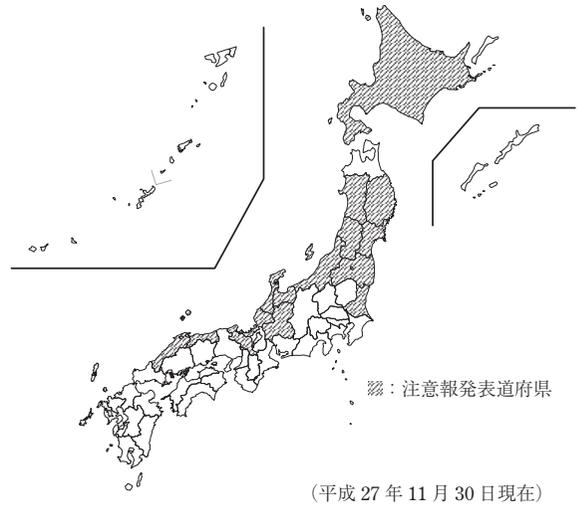


図-3 斑点米カメムシ類の警報・注意報発表状況

じること、まん延防止および根絶に努めている。

新規発生病害虫の確認に係る報告については、平成26年度は28件、平成27年度は10月までに23件となっており、特に、本年度は、我が国の重要な農作物に甚大な被害を及ぼすおそれが非常に高いミカンコミバエ種群やジャガイモシロシストセンチュウの侵入が確認された。

また、過去に侵入が確認された重要病害虫や国内の一部地域のみが発生している重要病害虫のうち、ウメ輪紋ウイルス、アリモドキゾウムシ、イモゾウムシおよびカンキツグリーンング病菌については、引き続き、移動規制や緊急防除等の措置を講じることで、まん延防止および根絶に努めている。

1 ミカンコミバエ種群

ミカンコミバエ種群については、毎年、台風などの強風に乗って我が国に飛来することが確認されている。平成27年は、鹿児島県奄美大島の南部を中心に、秋以降、侵入警戒調査用のトラップに継続的な誘殺が確認された。このため、奄美大島においては、有人ヘリコプターによるテックス板（誘殺剤）の散布などの防除対策を徹底するとともに、平成27年12月13日から、寄主果実の移動規制や廃棄命令を行う緊急防除を開始し、ミカンコミバエ種群のまん延防止および根絶に努めている。

なお、寄主果実の移動規制については、昭和54年の根絶以来、36年ぶりの実施となる。

2 ジャガイモシロシストセンチュウ

ジャガイモシロシストセンチュウについては、北海道網走市内の2地区6筆で発生が確認されたことから、まん延防止のため、収穫物に付着した土の輸送時の飛散防

止や農機具に付着した土の洗浄等の防除対策の徹底を図るとともに、ばれいしょなどが地区外に移動される場合は、植物防疫官が確認を行っている。また、発生地域の周辺においては、引き続き、発生状況の調査を実施することとしている。

3 ウメ輪紋ウイルス

(プラムボックスウイルス (PPV))

平成21年4月に東京都の青梅市で確認されたPPVについては、毎年、全国で発生状況を調査しており、感染が確認された東京都、愛知県、大阪府および兵庫県の一部地域においては、まん延を防止し、国内からの根絶を図るため、宿主植物の移動規制や廃棄命令を行う緊急防除を実施している。

平成27年の調査の結果、東京都および兵庫県の一部地域で根絶が確認された一方、愛知県および大阪府では新たな地域で感染植物が確認されたことから、引き続き緊急防除を継続し、PPVのまん延防止および根絶に努めている。

4 アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシ

鹿児島県の喜界島においては、アリモドキゾウムシを対象として、沖縄県の津堅島においては、アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシを対象として、不妊虫放飼法などによる防除を実施し、根絶防除事業を進めている。

5 カンキツグリーンング病菌

鹿児島県の奄美群島（奄美大島および喜界島を除く。）および沖縄県北部地域においては、両県が感染植物を処分するなどの根絶に向けた取組を進めている。鹿児島県においては、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所が開発したダイレクトPCR法によ

る迅速かつ簡便なカンキツグリーニング病菌の検出法を導入し、感染状況調査の高精度化により、早期の根絶を図っている。

IV 農林水産航空事業

1 H27 年の事業実績

有人ヘリコプターによる平成 27 年度の農林水産航空事業の農業関係の延べ面積は 48 千 ha となる見込みである（計画値）。作物別では、水稻では 38.7 千 ha、水稻以外（果樹、畑作物等）防除で 8.3 千 ha、その他（播種・施肥等）1.4 千 ha となっている。また、ミバエ類の再侵入防止対策の延べ面積は 2,394.1 千 ha となる見込みである。

無人ヘリコプターについては、機動性が高く、きめ細かな作業が可能ということもあり、防除実施面積（延べ面積）は平成 24 年度以降 100 万 ha を超え、年々増加している。一方、平成 26 年度には無人ヘリコプターによる人身事故が発生したことから、安全対策のより一層の強化を図るため、昨年 7 月に「無人ヘリコプター利用技術指導指針」を改正し、機体管理および点検の徹底等の事故防止のための具体的な対策を追加した。

2 無人航空機の新たな規制

平成 27 年 4 月 22 日に首相官邸屋上にドローンが発見された事案などを踏まえ、政府において「小型無人機に関する関係府省庁連絡会議」を設置し、小型無人機に関する運用ルール・法規制の在り方等について検討を進めており、同年 9 月に航空法の一部が改正された（同年 12 月 10 日施行）。

航空法の一部改正により、産業用無人ヘリコプターを含む無人航空機が航空法の規制対象となり、農薬・肥料の散布や播種等のために無人航空機を飛行させようとする場合は、国土交通省の事前許可・承認を受けることが必要となった。

このため、農林水産省および国土交通省では、技術指導指針等に基づき安全性を確保したうえで空中散布等を行う場合は、実施主体が行う許可・承認の手続きが過重にならないよう、許可などの基準の弾力化や、申請手続きの簡素化をすることとして配慮した。

表-3 平成 27 農薬年度農薬出荷状況（暫定）

（単位：t, kl, 百万円, %）

用途		平成 26 農薬年度	平成 27 農薬年度	
		出荷	出荷	対前年比
殺虫剤	数量	68,774	63,059	91.7
	金額	102,547	98,424	96.0
殺菌剤	数量	39,214	37,952	96.8
	金額	74,934	74,840	99.9
殺虫殺菌剤	数量	20,913	20,332	97.2
	金額	37,914	37,612	99.2
除草剤	数量	61,460	60,382	98.2
	金額	119,050	116,683	98.0
その他	数量	5,162	4,858	94.1
	金額	9,547	9,884	103.5
合計	数量	195,524	186,581	95.4
	金額	343,991	337,443	98.1

農薬工業会調査（農薬工業会会員対象）。

（注）端数処理（四捨五入）の関係で、合計欄の数字と足し上げた数字とは必ずしも一致しない。

また、今般の航空法の改正による申請手続や事故発生時の報告手続等を円滑に対応するため、「無人ヘリコプター技術指導指針」を廃止し、「空中散布等における無人航空機利用技術指導指針（平成 27 年 12 月 3 日消費・安全局長通知）」を新たに制定した。

なお、ドローンなど小型無人機については、中山間地域や狭小な園地等における農薬散布などでの利活用が期待されているが、技術指導指針などのガイドラインの対象になっていないことから、（一社）農水協と協力し、無人航空機の運行基準などの策定に向けて検討を行っている。

V 農薬の出荷状況

平成 27 農薬年度（平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日）における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では 4.6% 減の 187 千 t または kl、金額では 1.9% 減の 3,374 億円である（表-3）。